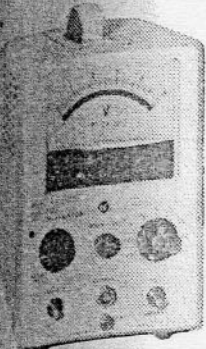


# 国内新製品紹介

## 菊水電波の新製品 2 種

### ●方形波発生器 “494B,” “494C”

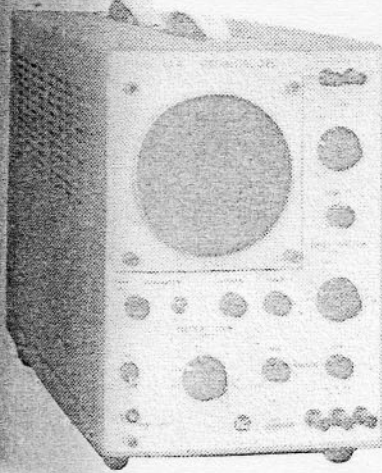
本機はオシロスコープの電圧目盛校正に使用する方形波の発生器で、実効値型、平均値型、実効値および高値間電圧指示型の各種真空管電圧計の目盛校正にも利用できる peak to peak 電圧直読の電圧計と分圧回路



より 1000 V 以下の任意の方形波出力 (60 c/s および 1000 c/s) のほか、同一電圧値の直流出力を取出すことができる。494C は 494B の巻線抵抗に要直し、さらに高精度の校正を可能にしている。方形波出力は 0.1~0.2、0.5、1、2、5、10、20、50、100 mV P-P、と 0.1~0.2、0.5、1、2、5、10、20、50、100V P-P の 15 レンジで、精度は 494B が 3% (外付計器使用で 1.5%)、494C が 2% (外付計器使用で 0.3%) である。サグ、オーバーシュートは 0.5%、1%、立ち上がり時間は 2μs (494B)、10μs (494C)、対称性は 1:1 に調整可能、出力インピーダンスはレンジにより変化し約 0~2.6 kΩ。電源変動 ±10% に対して安定度は 1%。外形寸法は最大部で幅 176×高さ 245×奥行 298 (mm) で、重量は約 6.5 kg である

### ●133 mm トリガー・オシロ “554”

133 mm の半残光性ブラウン管を使用した、いわゆるシンクロスコープで、校正されたスクリーン上に 0.1V~500V、0.2μs~25s にわたる広範囲の波形観測と測定ができる。周期の一定しないパルス波形などにも容易に同期し、5倍のマグニファイアおよび校正用方形波出力を備え、小型・軽量にできている。ブラウン管の加温電圧は約 1.6 kV、垂直軸の入力インピーダンス 1MΩ、50pF 各レンジ一定、最大入力電圧



は 500V、感度は 8 レンジ (1-2-5 ステップ、0.1V cm~20 V cm) である。水平 (時間) 軸の方式はスタート・ストップおよびリカーレント・スイープ時間は 19 レンジ (5-2-1 ステップ) となっている。校正電圧は出力 1, 2, 5 V P-P (正進行) 1000 c/s 方形波、精度は 3% (ツェナー・ダイオードで安定化) 外形寸法は最大部で幅 240×高さ 330×奥行 498 (mm) で、重量は約 15 kg である。

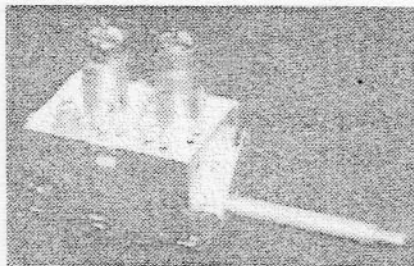
(東京都大田区馬込町西 4 の 67)

菊水電波 K. K.

## 大和電気の新製品 2 種

### ●小型 TV チューナー “EDI-100”

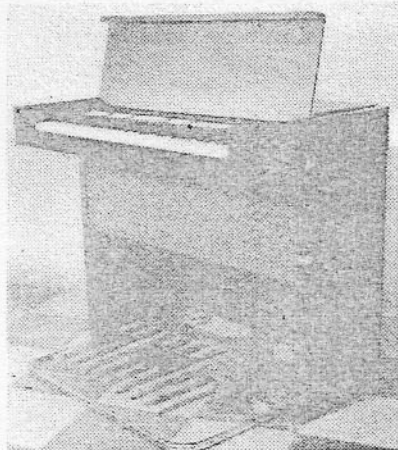
チューナー・メーカーである大和電気では従来のターレット型を思いきり小さくし、ロータリースイッチ型よりも小型になった EDI-100 型の量産をはじめた。仕度はターレットとロータリーの利点をとった折衷型で、性能はターレットと同等である。特に重要部分のハンダづけを自動ハンダ機で行ない、品質の安定性をはかり、絶縁材料、耐久力の点でも一段の改善をしている。映像中間周波数は 26.75 Mc、雑音指



数は低チャンネル 6dB 以下、高チャンネル 6.5dB 以下、利得は 38dB 以上となっている

### ●電子オルガン “EO11”

同社の研究所である大和技術研究所で研究を続けていた電子オルガンが完成した。本機はトランジスター 250 個、ダイオード 270 個、真空管 50 本を使って、トーン・ジェネレーター、音声混合、サスティン、トーン・フィルター、



およびその他の附属回路を構成したものである。フリップ・フロップ回路から矩形波を発生し、パーカッション等によりピアノ、ハーブシコード、オルガン、クラリネット、フルート、バイオリン等の音色をサスティン、トレモロ等により、各種各様に押ボタン操作で簡単に作り出すことができる。同じ電子オルガンでもパイプ・オルガン式のもの EO12 型も完成したとのことである

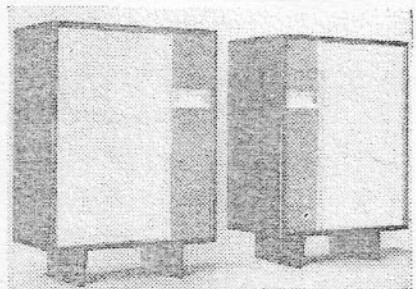
(川崎市小倉字北耕地 TEL: 川崎 3-0211)

大和電気 K. K.

## コーラルの SP システム

### “BX-1A”

2 ウエイのステレオ・スピーカー・システムである。30cm の高能率ウーファとプロフェッショナルのホーン・トゥイーターを使っている。入力力は 20W VC インピーダンスは 16Ω、再生周波数帯域は 35~20,000 c/s、クロスオーバー周波数は 2,500 c/s である。また、付属品として、プッシュボタン式の音質調整装置もついている。外形寸法は高さ 700×幅 500×奥行 300 (mm) である。小売正価は左右とも各々 ¥22,000。



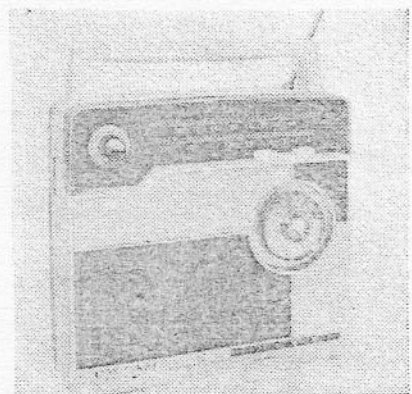
(東京都北区塚船町 3-25)

福洋音響 K. K.

## アイワの新製品 3 種

### ●FM/AM ポータブル・ラジオ “AR-111”

11 個のトランジスターを使った FM/AM 両用の 2 バンド・ラジオである。AM は 535~1605 kc、FM は 88~108Mc (日本チャンネル





は 76~90 Mc) である。高周波部には 3 個のメカ・トランジスターを使い、AM:200 $\mu$ V/m (SN 比 20dB), FM:10 $\mu$ V (SN 比 20dB) の高感度を得ている。IF は AM が 455 kc, FM が 10.7 Mc, イメージ妨害比は AM が 40 dB 以上, FM が 30 以上となっている。出力は 800 mW (歪率 10%)。スピーカーは 12 cm と 6 cm の 2 個が入っている。電源は単一×4 (6V) である。外形寸法は横 300×高さ 260×厚さ 90(mm) で、重量は 2.8 kg である。

●4バンド・TR ラジオ “AR-101”

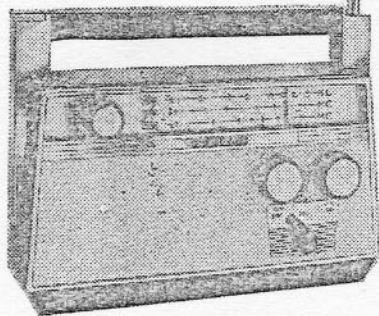
8 石 4 バンドのポータブル・ラジオで、中波帯 535~1605 kc に、短波帯が SW<sub>1</sub>: 2~5 Mc, SW<sub>2</sub>: 9.4~12.4 Mc, SW<sub>3</sub>: 14.8~18.5 Mc と 3 つのバンドに分れ、昼間、夜間など空状態に応じて適当なバンドの短波放送を聞くことができる。なお、短波のバンド幅は普通の場合の 1/3 で、つまりダイヤル面一



杯では普通の 3 倍に拡大されるわけで同調がとりやすくなっている。内蔵のフェライト・バー・アンテナも断面積の大きなものを使って感度を上げている。出力は無歪で 500 mW, 最大 800 mW, 使用スピーカーは 8×12cm P. D. S (VC インピーダンス 8 $\Omega$ ) である。大きさは 220×262×70 mm で、重量は 2.4 kg である。単一×4 の 6V である。

●8石3バンド・ラジオ “AR-803”

中波帯 535~1605 kc, 短波帯 1.6~4 Mc, 6~16 Mc の 3 バンドである。出力は無歪 250 最大 400 mW, スピーカーは 7.5 cm で、トーン・コントロールのつまみもついている。アンテナはフェライトバー・アンテナと 10 段引伸し式のアンテナを自蔵している。電池は単二×6 の 9V, 外形寸法は 183×245×70(mm) で、重量は 1.6 kg である

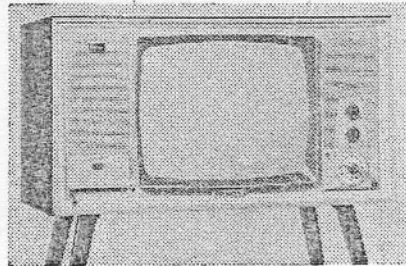


(東京都千代田区神田) アイワ K. K.

日立の新製品 2 種

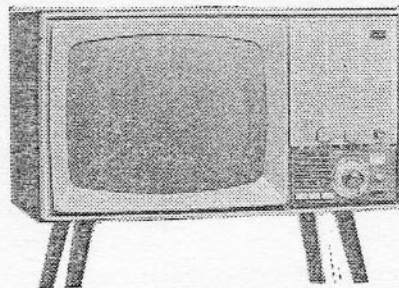
●16 型コンソレット TV 受像機 スザンナ “STX-900”

最近出現して話題をまわっている 16 型ブラウン管を使ったいわゆるワイド・スクエア型で、スピーカーは前方向に 2 つ取付けてある 画面の向って左が 25×12 cm 楕円型、右が 12 cm 丸型である。また日立の誇る超高感度管 4R-HH8 (gm 16.5m $\mu$ , セミ・リモート・カットオフ) を採用して弱い電波でも鮮明に受像することができる。外形寸法は幅 670×高さ 385 (脚つき 785)×奥行 390mm で、重量は約 21 kg である。



●19 型デラックス受像機 “ジャネット NX-980”

これは 16 型より一まわり大きい 19 型で、前の 17 インチ・ブラウン管(110°)を 114°化したものである。内容はブラウン管を含めて 16 球で、ほかにシリコン整流器 HR25×2 となっている。スピーカーは低音用として 20 cm 丸型 1 個、高音用として 6.5 cm 丸型 1 個がついている。音声出力は約 2.5W, 消費電力は 150 W, イヤーホンやリモコン装置もつけることができ、またプレーヤーやテープレコーダーを使うこともできる。外形寸法は幅 710×高さ 420 (脚付 820)×奥行 415 mm で、重量は約 28.5 kg である



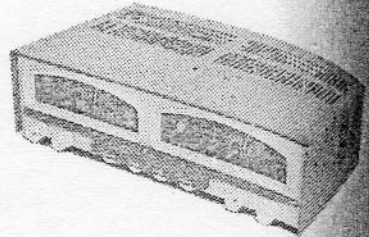
(東京都千代田区新丸ビル内) 日立製作所 K. K.

ラックスの新製品 2 種

●ステレオ・アンプ “EQ23”

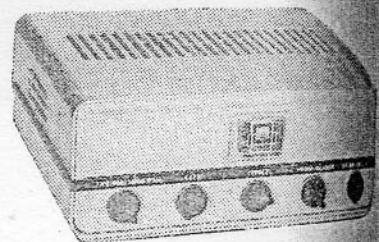
50c/s における無歪出力 (歪率 1%) が 12+12 W という Hi-Fi アンプである。使用真空管は 6BE3×2, 6BD3×2, 12A07×4, 6BM3×4, 6DA5×2 にシリコン・ダイオード SE-05A×2, ゲルマイ OA70×2, それにセレン整流器という内容で、左チャンネルが 535~1605 kc, 右チャンネルが 535~1605 kc と 6~18 Mc の 2 バンドである。アンプ部の周波数特性は 30~25,000 c/s ( $\pm 1$ dB), 出力インピーダンスは 8-16 $\Omega$  (スイッチ切替), 感度 (出力 12 W, 1000c/s における) は Mag 4 mV, Xtal 150 mV, Aux

150 mV, S/N 比は 50 dB (Mag: インプターは RIAA (NF 型), トーン・コントロールは 100c/s, 10,000c/s $\pm 10$ dB (NF 型) となっている。消費電力は最大出力時に 115 W, 外形寸法は横 445×高さ 150×奥行 295 (mm) で、重量は 13 kg である 価格は完成品 39,000



●ステレオ・アンプ “SQ5B”

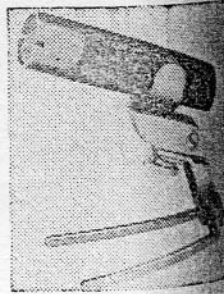
これは 50 c/s における無歪出力 (歪率 1%) が 14+14 W というものであるが、トランスの小型化、配置の合理化によって小型に組込されている。新品種 6AN8 や初段に 12AX7 を用いたヒーターは直流点化にするなどノイズ・レベルの低下をはかっている。使用真空管は 12AX7×3, 6AN8×2, 6BQ5×4, 5AR4 で、これにはチューナーはついていない。入力には TAPE, MAG TUNER, Xtal の 4 種である 出力インピーダンスは、4, 8, 16, 32  $\Omega$  があり、トーン・コントロールは新 NF 型  $\pm 16$  dB, 外形寸法は幅 380×高さ 140×奥行 290(mm) である。重量は 10.5 kg, 完成品の定価は 39,000



(大阪市西成区長橋通 2 の 2) ラックス K. K.

フォスターのダイナミック・マイク “DF-1”

バー・タイプで外径が 21mm できわめて小さく、無指向性である。座談会や手持移動用はもちろん、小型であるから隠しマイクとしても使える。また付属のネック・コードにより首から下げて使うこともできる。ケースはアルミのダイカスト製である インピーダンスは 60 $\Omega$ , 10k $\Omega$ , 50k $\Omega$ , 感度は -55 dB (50k $\Omega$  1,000c/s), 周波数特性 100~12,000 c/s ( $\pm 2$  dB), 定価はスタンドともで 3,150,

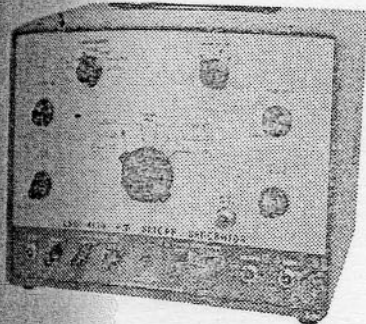


(東京都三鷹市下連雀 384) フォスター K. K.

## 大松電気の FM スイープ・ジェネレーター “LSW-410”

本器は FM 受信機の調整試験に使用するために設計したメーカーの生産現場用測定器であり、次の使用目的により、下記の如く A、B、C の3機種に分けられている すなわち、高周波および中間周波調整用 LSW-410A、高周波部調整専用 LSW-410B、中間周波調整専用 LSW-410C。

概要として高周波帯を6もバンドに分けており、中間周波帯は 10.7 Mc を単独に発生せしめ、同時に各バンドの中心周波数をマーカー信号により指示しており、特に本器の場合、マーカー信号による PIP の表示はアツタ回路により発生せしめ測定回路に対して各負荷の状態にて表示しているから、誤測定はなく、またスイープによって画かれた特性はマーカーにより歪を生ずることはない

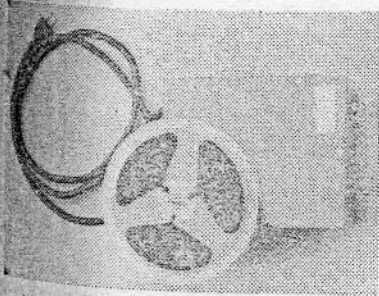


(横浜市港北区綱島町 850)

大松電気株式会社

## ミツワのテープ・イレーサー “M3A 型”

このテープ・イレーサーは録音したテープを巻いたまま、僅か数秒間で、完全に消去するために設計されたものである このイレーサーの上に録音したテープをリールごと乗せて数回回転させるとテープは完全に消去される。従って、バック・グラウンド・ノイズは皆無になり、特にテープ・デッキの消去ヘッドを使用した場合よりはるかに優れた効果が得られます。そして、各サイズのリールに使用できるように製作されている 使用法は至極簡単で、パイロット・ランプ及びフュースがついているから、使用上入力がわかりやすく、安全に使用できる 電源：100VAC 電流約 8A50~60c/s 重量：約 5.4kg 寸法：238×150×95 mm コード：長さ約 2 m



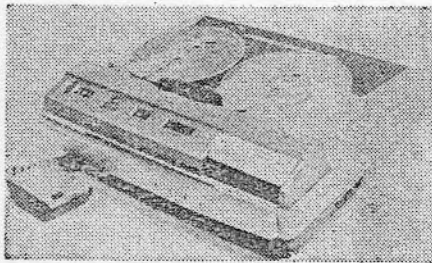
(東京都品川区荏原 5-25)

TEL: 781-8340

ミツワ通信機株式会社

## ソニーの TR テレコ “810”

オール・トランジスターの交直両用テープレコーダーで、従来の電池式にくらべて5型テープが使用できるため録音時間も長い テープ速度は 95 cm/秒 と 4.75 cm/秒 である。電池を使う場合は単一×6 の 9V で連続使用で 6~8 時間使える 使用トランジスターは 9 個、それにダイオード、サーミスター各1個である。録音方式は交流バイアス方式、消去は永久磁石方式、半幅録音であるから5型テープを 4.75 cm/秒 で使えば往復3時間の録音が可能である。出力回路は内蔵の 8×15 cm スピーカーとイヤホン・ジャック1個である。入力回路はマイク、(内蔵)、外部マイク、AUX、周波数特性は 9.5 cm/秒 のとき 90~9,000 c/s、4.75 cm/秒 のとき 90~5,000 c/s となっている。外形寸法は幅 325×高さ 98×奥行 274(mm) で、重量は約 3.5kg である。定価は ¥55,000



(東京都品川区北品川)

ソニー K.K.

## クライスラーの 2 ウエイ SP システム “8H-90”

コーラル製 20 cm ウーファ 8L-1A と ナショナル製 ホーン・トゥイーター HT-311B を使用した標準型 2 ウエイ・システムである インピーダンスは 16Ω、最大許容入力力は 8 W、再生周波数帯域 50~16,000 c/s、キビネットの外形寸法は幅 510×高さ 720 (脚90)×奥行 315mm で、重量は 13 kg。

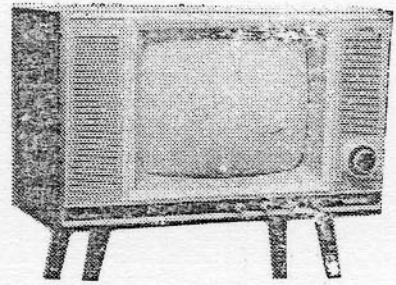
(東京都千代田区神田)

クライスラー電気 K.K.

## QQQ の 19 型 TV キット “19Q-7AH”

新型のワイドスクエア (19 型) 114° 偏向のブラウン管を使い、16 珠+7 石 (B 管を除く) である。特長としては ABC/ACC つき、トロイダル DY 使用、IF 回路はプリント配線、AFT、トーン・コントロールつき、前面に2スピーカーが使っていることなどである。また完成トランス式 (ワンタッチ・コントロール) である。最大感度は 30 μV/20V P-P 音声出力は 1.5W AGC は尖頭直型、水平同期はゲル

マイによる対称器歯状波 AFC 高圧出力は 15 kV となっている



(東京都大田区大森 2 丁目)

中央無線 K.K.

## ミラフォンの SP システム “AK-2”

無理な低音増強とか、残響音附加などというような人工的な細工をなすべく、このシステムに設計されている。コンパクトにまとめたものである。また極端弱音から最強音までの直線性もよいように工夫が払われている。内容は 28 cm のウーファ R28-UD と 8 cm のトゥイーター RT 8B からなる 2 ウエイで、R28-UD のコーン紙は異質の多繊維で成形したもので、軽くて強靱で、かつ経年変化も少ない。エッジは半円形の環状はゴム布製で、大きな振動にも反響振を起すようなことはない。従ってインピーダンス特性も  $f_0$  ピークなどなく、平坦になっている。トゥイーターは金属製の振動板を使用したもので、コーンの背面に強い空気制動を与えて、トランジェント特性を良くしている。

(東京都中央区銀座西 6 の 1)

究実電機 K.K.

## 山水のステレオ・アンプ “SM-10”

コンパクトにまとめられた標準型のステレオ・アンプで、FM、SW、MW の 3 バンド・チューナーつきである。アンプ部は 2 チャンネルで、終段は 6GW3 を使い、最大出力 3.5 W +3.5 W となっている。周波数特性は 40 c/s ~40 kc (-1 dB 以内)、出力インピーダンスは 8, 16, 32 Ω である。プリアンプ部の特性は Xtal が利得 40 dB で、出力 3 W に要する入力は 50 mV、AUX も同じである。S/N 比は AUX 端子にて 63 dB、トーン・コントロールは CR 型で 50 c/s (+15 dB ~ -13 dB)、

